

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	サポートピア葉山(しづか)		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179-1		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果確定日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年12月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご入居者第一主義を方針とし、ご入居者が主体となって取り組んでいる。特に日頃の支援・援助に力を入れ行っている。また、どうい状況の方でも受入れ、最後まで生活して頂くよう職員・家族・医療機関や主治医と連携・協力し、行っている。  
環境的にも交通の便も良く、日当たりがよく庭も広く静かで、施設内も明るく広々とした空間で、清潔(尿臭・便臭等がない。)で生活環境が非常に良い。職員同士の連携はまだ未熟だが昨年に比べ徐々に解決している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1点目に理念に基づく運営の面においては、法人の理念を丁寧に各ユニットまで落とし込んで実践する仕組みが構築されている。更に毎年度策定している重点目標は幹部職員以外も参画しているため、グループホームとして一体的に取り組むことができている。次に施設長は職員の意見を重要視している。このような姿勢が働きやすい職場環境を形成して、グループホームの入居者や職員は、自然と明るい雰囲気の中で関わることができている。2点目にその人らしい生活を支援する一面においては、入居者支援の根幹となる介護計画の内容が詳しくわかりやすい。更に支援目標等は、新入職員でもわかりやすく工夫して示されている。次に医療との連携について、医師等の定期的な訪問診療に加えて、居宅療養管理指導というサービスも必要に応じて導入して、手厚い医療支援体制を構築している。最後に住空間の面で共用空間は広く明るく、入居者の心地よい居場所の1つとなっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・基本方針を掲示し意思統一を図っている。普段より施設長や管理者は、意識的に言葉にして職員への浸透を図っている。	法人として基本理念と基本方針を明示した上で、グループホームピア葉山の運営目標、更には年度毎に重点目標を策定して、理念を実践しやすい仕組みを作っている。また訪問調査日は、作り直しているということで視認はできなかったが、ユニット毎にもう1つ掘り下げたユニット目標を作成して、掲示しているとのことであった。このような工夫を重ねて、職員が理念や目標を意識しやすい環境を作っている。また、毎年掲げている重点目標は職員全体で内容を考えているため、受け身ではなく能動的に取り組むことが期待できる。最後に施設長は、理念の実践について、達成していることも達成していないことも、まずは双方ともに評価をして、次にどう取り組むべきかを、職員目線で捉えていることをヒアリングの中から確認することができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。定期的に広報誌を発行し、自治会回覧板で施設紹介や介護に関する情報提供に努めている。催しに参加いただき、交流を図っている。	施設長は地域との繋がりに課題を感じているとのことであったが、少しずつ地域との関わりは増えていることを確認することができた。具体的には、職員が立ち話程度ではあるが、通勤途中に近隣住民と会話を持つ機会が増えたり、グループホームの行事の際に近隣の保育園から慰問を受けたり、地域とは直接関係ないかもしれないが、学生の実習を受け入れたり、幅が徐々に広がっている。今後は、グループホームの小さなイベントも地域に発信して、老若男女問わず、「地域住民」と触れ合う機会創出を工夫して、関係構築に努めていく方針であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じ、広報誌による認知症についての知識や予防を掲載したり、認知症の資料の配布や、相談受付や施設見学等も呼び掛けている。施設紹介を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、長与町介護保険課と長与町地域包括センター職員・家族代表・職員で対応しているが自治会の参加はない。少人数ではあるが意見交換を行なっている。	運営推進会議の際、自治会からの参加は今のところないということで、現状でいうと地域住民の参加は「望めない」という表現が使われていた。しかし、グループホームは地域密着型サービスであることや、グループホームだけに限ったことではないが、介護従事者として介護や認知症に対する理解を住民に促進すること。また、地域住民と協同して災害等の有事に備えること。このように様々な観点から、地域住民との接点は持つべきなので、このような会議も活用しながら、地域とのつきあいを深めていくことが重要である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や役場訪問時等に、介護保険課や地域支援包括センターへ、問い合わせや相談・報告・情報交換を心掛けている。	保険者との接点は、運営推進会議の場が一番定期的であるため、施設長はこの場を重要視している。保険者に対しては通常の運営報告に加えて、グループホームの予定等も積極的に伝えるようにしている。また、逆に保険者からの問い合わせが時々あるため、グループホーム側から情報提供することもあるとのことである。このような形で相互に情報を共有して、入居者支援を実践しているところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員会を中心に内部研修を行い、理解を深める為の努力している。事業所と虐待拘束委員会を中心に、職員全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。	最近入職してくる職員の傾向の1つに、ピア葉山で初めて介護の仕事をするというケースが増えているとのことであった。このような実態を踏まえて、入職時に人権の尊重や、倫理観、認知症の理解等を重点的に指導している。入職後は、3ヶ月に1回開催しているユニット会議や委員会を活用して、定期的に身体拘束や虐待防止の研修や周知を図ったり、年4回の全体会議の場面においても必要に応じて研修を開催している。また、入居者を抑止するような言葉使いについては、その都度施設長や管理者が指導するようにして、心理的な虐待に陥ることのないように注視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同様の努力をしている。身体的に変化を発見した職員は、速やかに報告書を提出し、見過ごしや虐待防止に努めている。また、言葉の暴力に対しても全職員意識し、普段より職員同士で注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、実例も無く成年後見制度については、理解不足である。取り組みが無く支援まで及んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日を決定する前に、施設長が十分な説明を行い、理解・納得を得て契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族へ満足度調査を行い指摘事項等ある場合は改善を行っている。	運営に関する意見を得るために、グループホームでは通常の聞き取り以外に、「入居者満足度アンケート調査」を実施している。直近の実施状況として、約7割の回収ができていて、記載内容や意見に関するグループホームとしての返答まで実施しているとのことであった。このように家族が普段言いにくいことでも外部に表出する機会があるため、施設長は定期的な開催が質の向上につながると確信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の事業計画作成のための全体会議や毎月の各ユニット会議、各委員会に参加により、職員の提案・意見を反映させている。	職員からの意見の内容は、運営に関することよりも入居者の支援内容や、対応方法等に関することが多数を占めるとのことである。運営に関する意見の1例としては、グループホームの備品の故障に伴う交換や、修繕等を丁寧に聴くようにして、スピード対応を心掛けているとのことであった。また、自分から意思表示をすることが苦手な職員に対しては、施設長が気掛けて個別に意見を聴いたり、普段から意図的にコミュニケーションをとっているとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年1回実施し、本人・管理者・施設長が評価し、職場環境・条件の整備を心掛けている。また、助成金等を活用し給与水準の向上と処遇改善を図っている。正社員登用のチャレンジ制度を設け、労働意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修年間計画を立て、初任者研修やその他の外部研修を受講させている。また、施設長・管理者を中心に職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津・長与グループ協議会に加入し、親交を図って情報収集を行い参考にしている。しかし、同業者との交流機会が少なく、相互訪問等の活動がなかなか図れない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望段階から管理者及び計画作成担当者が面談し、入居に伴う不安を取り除く事が出来る様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までの生活状況を聴取し、ご家族の意見や希望を十分に聞くことにより、不安を取り除く事が出来るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に、入居希望される方の状況を把握する為、看護サマリーやケアマネからの情報提供により状態を把握してアドバイスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳の気持ちを持ち、日々の暮らしの中で共感し支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変の時や来訪時や毎月のお手紙により本人の状況を報告し情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活習慣を尊重し、出来る限り交流が途切れないようにしている。又、外部からの面会も制限が無ければ受け入れている。	法人の関係継続に関する方針は「行ける時に行く。出来る時に実行する。」であるため、職員が対応できない時は家族に依頼して、馴染みの関係継続の支援を行っている。具体的には家族に依頼して買い物に連れていってもらったり、以前から入居者が通われていた理容室を利用して、散髪する等の支援を行っている。この他、外国に在住している家族からの電話を取り次ぐこともしている。最後に印象的だったのは、退居した入居者へ贈り物をしたりする等、グループホームピア葉山自身も、入居者にとって馴染みの人や場所であり続けている点である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりで難しい場合には、職員と一緒に話をすることで、談話できる空間を提供できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、ご家族に面会や状況確認の連絡をしていか確認し、大丈夫な場合は後日、様子を見に行くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録に本人が発した言葉を明記し、本人の思いや意向を関係者が把握出来るようにし、表情や態度の観察により把握したいが、統一した記録が出来ていない。	日常の入居者との関わりの中、個別ケアで傾聴の姿勢を基本とし、会話や表情などから思いや意向を汲み取っている。特に日曜日を入浴や掃除をしない日として、入居者との関わりに重点を置いている。外出の希望や、食に関してのオーダーには出来得る限り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に聴取し、アセスメントを作成している。同時に聴取困難な場合は、ご家族や近親者、ケアマネージャーなどに話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、バイタルチェックを記録し健康状態の把握に努めている。出来る限る本人のペースに合った生活が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を第一に捉えた上で、ご家族の希望も反映出来る様に計画作成者がご家族、職員と意見交換しながら介護計画を作成している。	本人や家族を交え意向の確認を行い、モニタリングはスタッフ全員で行っている。介護計画のサービス内容が具体的で、日々の支援日誌に落としこまれており、目標に対する支援がわかりやすい物となっている。入居者の現状に即したケアができるようになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援、生活の様子、特変時の様子を記録し次に繋げられる記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望に出来るだけ添えられるように話し合いながら取り組んでいる。本人の状態変化に合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事には自治会の方をお招きし交流を図っているが、まだまだ地域との交流が出来ているとはいえない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続していただき、ご家族に定期受診対応をしていただいている。又、医師の往診も行なっている。緊急時には電話にて対応している。	入居時に医師についての希望を確認している。各利用者に対して2週間に1回医師の往診を行い、居宅療養管理指導や訪問歯科の訪問もある。家族に受診の協力も得ているが、職員による通院支援も可能であり、医療との連携は良好である。受診内容は介護記録に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は現在いないため、主治医と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を行い、ご家族、病院関係者に状態の確認を行っている。早期退院に向け、ご家族、医療機関と連携をとりながら受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご本人、ご家族と話し合い、出来る限り希望に沿った対応をさせていただけるようにしている。	入居時に看取りについて、グループホームとできる支援について説明は行っている。身体状況で医療が必要となった時には、医師と家族を含め話し合いを行ない方向性を決めている。現在も看取りを行っており、特変に留意している。	看取りに関して、家族との話し合いを行なってはいるが、指針や同意書・マニュアルの策定がなされていない。終焉をどのように迎えるか、生命に関する重要な事にて、必要な書類の作成を急ぎ揃えることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを完備しており、それに基づいて対応する。AEDを設置し、全職員救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害対策マニュアルを完備しており、それに基づいて対応する。年に1回消防署立会いの下で火災避難訓練を実施している。又、自主訓練も実施しており、消防団や自治会の方にも参加をさせていただいている。	消防署立会いの訓練時には消防車が4台来て、避難経路や安全確保についての指導を受けている。ガス器具やIHコンロ等の点検をする自主検査表や施錠確認表にて、グループホーム内の点検も日々行っている。備蓄も1ユニット毎に水や食料等確保している。	防災計画は作成されているが、防災の訓練は行われていない。近隣住民との強力体制も無となっている。有事の際に一時的に地域の方の受け入れられる避難場所としての提供等、双方が協力し話し合う機会を設けていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の気持ちを忘れずに接する事を常に心掛けているが、馴染みの関係になることによって、言葉使いが適切でない場合もある。	入居者の特性や性格・生活歴等を考慮して人格や意向を尊重し、気持ちに配慮した声掛けを行っている。スピーチロックやちゃんづけ等の言葉掛けや方言の使い方に関しては、その都度注意をしている。排泄・入浴の際のプライバシーには、特に留意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自のペースで自己決定していただき、意思の確認を行うように努めているが、職員の判断で自己決定が出来ていない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の身体、精神状態に応じて対応する支援をしている。入居者1人1人の状況に応じて個別対応を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に依頼している。また、可能な方にはご家族に対応してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者好みのメニューを取り入れながら献立を立てている。調理の職員が居ない場合は外部に食材を発注しており、簡単な調理を行なっている。	食事は、調理担当による調理や湯せんで対応しているが、湯せんに関しては、鍋に移し味見や味付けをしている。メニューは栄養士が季節感や栄養を考慮して作成している。食事形態やアレルギー食も事前のアセスメントで把握している。入居者の意向で食べたい物には、出来得る限り対応している。運営推進会議において食事会も行い、参加者の意見を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックを実施している。又、本人の状態に合わせて刻みやトロミを付けたりし提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導をし、必要な方には介助を行っている。 個別に希望がある方は歯科の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを掴み、本人の状態に合わせて柔軟に対応している。気持ちよく排泄して頂けるように声掛け誘導を行なっている。	排泄は表情やしぐさ等から判断してさりげなく誘導をするようにし、プライバシーに配慮した対応を行っている。バイタルチェックシートに水分のインとアウト(飲水量と排泄量)を記している。夜間は睡眠状態等を考慮して排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品などを取り入れた食事を提供している。体操などで体を動かしてもらっている。必要な方には主治医に相談しながら下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	こちらからの声掛けで入浴される方がほとんどだが、入りたいと希望される時などタイミングも大切に柔軟に対応している。	夏場は週に2回冬場は1回を目安に、午後から入浴を行っている。入居者の希望があれば夜間19時頃の入浴にも対応している。入浴を拒否される方には、自分から入りたいと言われるまで待つ等、負担をかけない、さりげない誘導をしている。体調不良時には清拭に変更する等の対応を行っている。	職員のマンパワー不足もあるとのことですが、入浴は冬場でもせめて週に2回は施行して、身体の衛生清潔保持に努めることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせるように促すと共に、体調や気分によって、居室やソファーでくつろいだり休んでいただいている。睡眠障害がある方は主治医に相談し、眠剤を服薬している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに基づき、配薬、管理を行なっている。いつでも薬が確認出来る様に処方箋をファイリングし、保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで活躍の場を提供したり、季節の節目にはドライブに出かけている。本人の意向により家事手伝い、趣味に対する支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出出来るように、ご家族に連絡し、ご家族と外出したり、職員からもドライブや散歩に誘っている。	入居者の意向やその日の天気や外出支援を行っている。その年の時節や気候に合わせた外出を考慮し、あえて年間行事計画は立てていない。春の桜、夏の菖蒲等見頃に出掛けている。大きな行事の際には、中型のレンタカーを借りて外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてご家族より預り、管理している。 必要な物がある時は状況に応じご家族に購入を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能である入居者については、電話が出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽を流したり、ロールカーテンにより強い日差しを遮るなど環境を整えている。本人手作りの作品を掲示したり、季節感ある飾りつけを行なっている。	リビングは広くて明るく、陽当たりも良好である。入居者の笑顔と笑い声が印象的である。空調管理も行い、掃除も行き届き清潔感がある。玄関は天井が高く開放感がある。感染症対策に次亜塩素酸の噴霧器も設置している。フロアーのワックスがけも職員が自ら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置している。気の合う方が居室でくつろげる。他ユニットの協力でスタッフ付き添いのもと、自由に出入りが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品を多用し、本人好みの安らげる場所となるように配慮している。	各居室は広く、冷蔵庫や仏壇の持ち込みも可能である。お孫さんや家族の写真も飾られている。ドアにはダイヤ印の小さな飾り窓があり、緊急時にはそこから中の様子が伺えるようになっている。生活の継続性に配慮して入居者が心地良く過ごせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手摺りを設置している。トイレ、お風呂が分かるように表示している。分からずに混乱している時は、案内や誘導をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	サポートピア葉山(のどか)		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179-1		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果確定日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者第一主義を方針とし、ご入居者が主体となって取り組んでいる。特に日頃の支援・援助に力を入れ行っている。また、どのような状況の方でも受入れ、最後まで生活して頂くよう職員・家族・医療機関や主治医と連携・協力し、行っている。  
環境的にも交通の便も良く、日当たりがよく庭も広く静かで、施設内も明るく広々とした空間で、清潔(尿臭・便臭等がない。)で生活環境が非常に良い。職員同士の連携はまだ未熟だが昨年に比べ徐々に解決している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・基本方針を掲示し意思統一を図っている。普段より施設長や管理者は、意識的に言葉にして職員への浸透を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。定期的に広報誌を発行し、自治会回覧板で施設紹介や介護に関する情報提供に努めている。催しに参加いただき、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じ、広報誌による認知症についての知識や予防を掲載したり、認知症の資料の配布や、相談受付や施設見学等も呼び掛けている。施設紹介を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、長与町介護保険課と長与町地域包括センター職員・家族代表・職員で対応しているが自治会の参加はない。少人数ではあるが意見交換を行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や役場訪問時等に、介護保険課や地域支援包括センターへ、問い合わせや相談・報告・情報交換を心掛けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員会を中心に内部研修を行い、理解を深める為の努力している。事業所と虐待拘束委員会を中心になり、職員全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同様の努力をしている。身体的に変化を発見した職員は、速やかに報告書を提出し、見過ごしや虐待防止に努めている。また、言葉の暴力に対しても全職員意識し、普段より職員同士で注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、実例も無く成年後見制度については、理解不足である。取り組みが無く支援まで及んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日を決定する前に、施設長が十分な説明を行い、理解・納得を得て契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族へ満足度調査を行い指摘事項等ある場合は改善を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の事業計画作成のための全体会議や毎月の各ユニット会議、各委員会に参加により、職員の提案・意見を反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年1回実施し、本人・管理者・施設長が評価し、職場環境・条件の整備を心掛けている。また、助成金等を活用し給与水準の向上と処遇改善を図っている。正社員登用のチャレンジ制度を設け、労働意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修年間計画を立て、初任者研修やその他の外部研修を受講させている。また、施設長・管理者を中心に職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津・長与グループ協議会に加入し、親交を図って情報収集を行い参考になっている。しかし、同業者との交流機会が少なく、相互訪問等の活動がなかなか図れない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人の要望を聞き、出来るだけ応えるよう努めている。入居時は1対1にて対応し、ホームでの生活、他の入居者様と早く溶け込めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも入居時にお話を伺い、出来るだけ多くの情報を頂き、ご家族様にも安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人とご家族様にお話を伺った上で会議を開き、ケアプランを作成し、ケアプランにそって支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人の性格もあるので、出来ることは自分達でしていただきながら、難しいことは職員が間に入りながら、入居者様が中心となった生活空間であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は中立的な立場で接するよう努めている。ご家族と入居者様の関係はさまざまですが、お互いの存在がかけがえのないものであることを理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力をいただきながら、今まで縁があった方々とのお付き合いが途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格もあるので難しい面もありますが出来る範囲で入居者様を中心に職員が間に入りながら、入居者様同士の関わり合いを深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の退去後もご家族様に協力をいただきながら途切れないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の希望にそって出来る範囲での支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などは入居前での面接で話を会議を開き、職員全員が統一したケアをするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の体調を把握し無理のない生活をしていただけるよう努め、また本人の残存機能を活かすお手伝いなどをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様との談話をとおり、入居者様の願いや思いをご家族様が来訪される際にお伝えし、よりよい生活が出来るようケアプランに取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し、職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、事業所の多機能性はないが、3ユニットあるため、他のユニットとの交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回避難訓練を行い、地域の消防団に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族様に決めていただいている。往診の「かたも居られるが、緊急の場合を除いては、毎月のお便りで往診結果をお伝えしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職がいらないため主治医と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院と連絡を取り合っご本人の体調を第一に早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院後、入居者様の状況を見て、ご家族様と話し合いを行い、入居者様とご家族様に納得いただけるようお話をさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急の講習会に参加し、急変や事故発生時にすぐに対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、日頃の介助を通して緊急な時にはどのように動けばいいかなど職員同士で話している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格、生き方を尊重し、声かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、入居者様の意見を尊重している。言葉で表現できない方はふとした表情を見逃さないよう努め、遠慮がちの方は雑談を通し、本音を聞くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各々のペースに応じた生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身におしゃれは任せている。イベント時にはメイクをおこない、美容院などはご家族様の協力いただき、なじみの美容院を利用している方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューに関しては入居者様の意見を取り入れながら献立を立てたり、おやつと一緒に作ったり、出来る限り楽しんでいただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記入し、ひと目でわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握するように努めトイレでの排泄していただけるようつとめている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、水分補給や運動、繊維のある食物の摂取など便秘にならないよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそって入浴していただけるよう出来る範囲で支援している。しかし、時間帯によっては希望どろりにいけないこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かし、薬に頼らないようつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の説明をファイルにし、薬の効能や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かし、薬に頼らないようつとめている。それぞれの場で自分を活かせるよう努めている。出来るだけ全員が何らかの役割を持つことが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様に協力を仰ぎながら外出支援に努めているが、不足していると感じている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が管理している方は所持しているが、出来ない方は預かり金としてホームが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いたときには電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には不快さを感じないよう温度計を設置し、季節の花や装飾をし、季節感を感じるような空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりのプライバシーには配慮し、また、入居者様同士が自由に過ごせるようソファや和室を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用していた馴染みのものなどを持ってきていただき、本人の思うように居室を使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には名前や案内を掲示し、自立して生活できるような工夫をしている。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	サポートピア葉山(ほのか)		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179-1		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果確定日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101802-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者第一主義を方針とし、ご入居者が主体となって取り組んでいる。特に日頃の支援・援助に力を入れ行っている。また、どのような状況の方でも受入れ、最後まで生活して頂くよう職員・家族・医療機関や主治医と連携・協力し、行っている。  
環境的にも交通の便も良く、日当たりがよく庭も広く静かで、施設内も明るく広々とした空間で、清潔(尿臭・便臭等がない。)で生活環境が非常に良い。職員同士の連携はまだ未熟だが昨年に比べ徐々に解決している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・基本方針を掲示し意思統一を図っている。普段より施設長や管理者は、意識的に言葉にして職員への浸透を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。定期的に広報誌を発行し、自治会回覧板で施設紹介や介護に関する情報提供に努めている。催しに参加いただき、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じ、広報誌による認知症についての知識や予防を掲載したり、認知症の資料の配布や、相談受付や施設見学等も呼び掛けている。施設紹介を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、長与町介護保険課と長与町地域包括センター職員・家族代表・職員で対応しているが自治会の参加はない。少人数ではあるが意見交換を行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や役場訪問時等に、介護保険課や地域支援包括センターへ、問い合わせや相談・報告・情報交換を心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員会を中心に内部研修を行い、理解を深める為の努力している。事業所と虐待拘束委員会を中心になり、職員全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同様の努力をしている。身体的に変化を発見した職員は、速やかに報告書を提出し、見過ごしや虐待防止に努めている。また、言葉の暴力に対しても全職員意識し、普段より職員同士で注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、実例も無く成年後見制度については、理解不足である。取り組みが無く支援まで及んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日を決定する前に、施設長が十分な説明を行い、理解・納得を得て契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族へ満足度調査を行い指摘事項等ある場合は改善を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の事業計画作成のための全体会議や毎月の各ユニット会議、各委員会に参加により、職員の提案・意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年1回実施し、本人・管理者・施設長が評価し、職場環境・条件の整備を心掛けている。また、助成金等を活用し給与水準の向上と処遇改善を図っている。正社員登用のチャレンジ制度を設け、労働意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修年間計画を立て、初任者研修やその他の外部研修を受講させている。また、施設長・管理者を中心に職員の資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津・長与グループ協議会に加入し、親交を図って情報収集を行い参考にしている。しかし、同業者との交流機会が少なく、相互訪問等の活動がなかなか図れない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人の要望を聞き、出来るだけ応えるよう努めている。入居時は1対1にて対応し、ホームでの生活、他の入居者様と早く溶け込めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも入居時にお話を伺い、出来るだけ多くの情報を頂き、ご家族様にも安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人とご家族様にお話を伺った上で会議を開き、ケアプランを作成し、ケアプランにそって支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人の性格もあるので、出来ることは自分達でしていただきながら、難しいことは職員が間に入りながら、入居者様が中心となった生活空間であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は中立的な立場で接するよう努めている。ご家族と入居者様の関係はさまざまですが、お互いの存在がかけがえのないものであることを理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力をいただきながら、今まで縁があった方々とお付き合いが途切れないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格もあるので難しい面もありますが出来る範囲で入居者様を中心に職員が間に入りながら、入居者様同士の関わり合いを深めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の退去後もご家族様に協力をいただきながら途切れないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の希望にそって出来る範囲での支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などは入居前での面接で話を会議を開き、職員全員が統一したケアをするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の体調を把握し無理のない生活をしていただけるよう努め、また本人の残存機能を活かすお手伝いなどをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様との談話をとおり、入居者様の願いや思いをご家族様が来訪される際にお伝えし、よりよい生活が出来るようケアプランに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し、職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、事業所の多機能性はないが、3ユニットあるため、他のユニットとの交流を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回避難訓練を行い、地域の消防団に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族様に決めていただいている。往診の「かたも居られるが、緊急の場合を除いては、毎月のお便りで往診結果をお伝えしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職がないため主治医と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院と連絡を取り合ってお本人の体調を第一に早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院後、入居者様の状況をみて、ご家族様と話し合いを行い、入居者様とご家族様に納得いただけるようお話をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急の講習会に参加し、急変や事故発生時にすぐに対応できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、日頃の介助を通して緊急な時にはどのように動けばいいかなど職員同士で話している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格、生き方を尊重し、声かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、入居者様の意見を尊重している。言葉で表現できない方はふとした表情を見逃さないよう努め、遠慮がちの方は雑談を通し、本音を聞こう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各々のペースに応じた生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身におしゃれは任せている。イベント時にはメイクをおこない、美容院などはご家族様の協力いただき、なじみの美容院を利用している方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューに関しては入居者様の意見を取り入れながら献立を立てたり、おやつと一緒に作ったり、出来る限り楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記入し、ひと目でわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握するように努めトイレでの排泄していただけるようつとめている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、水分補給や運動、繊維のある食物の摂取など便秘にならないよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそって入浴していただけるよう出来る範囲で支援している。しかし、時間帯によっては希望どろりにいけないこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かかし、薬に頼らないようつとめている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の説明をファイルにし、薬の効能や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かし、薬に頼らないようつとめている。それぞれの場で自分を活かせるよう努めている。出来るだけ全員が何らかの役割を持つことが出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力を仰ぎながら外出支援に努めているが、不足していると感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が管理している方は所持しているが、出来ない方は預かり金としてホームが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いたときには電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には不快さを感じないよう温度計を設置し、季節の花や装飾をし、季節感を感じるような空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりのプライバシーには配慮し、また、入居者様同士が自由に過ごせるようソファや和室を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用していた馴染みのものなどを持ってきていただき、本人の思うように居室を使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には名前や案内を掲示し、自立して生活できるような工夫をしている。		